

大日本新聞

シネスコ版

No. 365

36. 1. 14

道新 1511
高野 16200
新装 1628
アコ 1641

本編同V

123017大山スキー場 鳥取-
(本編) (173017) 1030R

一、大寒、小寒

札幌、岩手、大阪

北国の温泉町、札幌郊外の定山溪は正月を温泉で過すお客で今年は大変なにぎわい。文字通り、好景気が明けた温泉地です。

岩手県津軽石川の名物、南部鼻曲りサケ漁もいま真盛りです。この日の水揚げは占めて二千二百尾あまり、ざつと百万円という売りあげです。

さき売りにぎやかに恒例、大阪今宮の十日えびす。あいにく雨にたたられましたが、消費景気が反映して、サイ銭の方はぐつとふえたとか。お宮さまにとっては笑いの止らない十日えびすでした。

一、新しい民族主義の動き

—コンゴ・ベルギー・アルジェリア
—キューバ・ラオス—

去年の国際政局を賑わせた民族自決の嵐は、今年に入つて、キューバ、ラオスへ波及し、コンゴ、アルジェリアの動きとともに、ますます重大な事態を迎えようとしています。

コンゴ独立の指導者ルムンバ首相が親西欧派のカサブブ大統領によつて逮捕されたことは植民地支配の根の深いことを示しましたが、一方、植民地コンゴを失つたベルギーでは、経済的損失を埋める増税措置が大規模なゼネストに発展。斜陽王国の苦悩をまざまざとみせています。

こうした中で、フランスのドゴール大統領は、アルジェリアに独立を与える解決案をひたして国民投票に勝利を獲得。現地フランス人の抵抗にもかかわらず、アルジェリアの独立はようやく実現の見通しとなりました。

一方、キューバから締め出しをうけてきたアメリカは、一月三日ついに国交断絶を通告し、険悪な様相をみせていますが、それに呼応するようにラオスでは革命軍と政府軍が戦争をつづけており、全世界を包んだ民族主義の動きは、世界政治の上に大きな変化をもたらすものと注目されています。

日本の群像

—高知—

一、足摺岬の人びと

大太平洋の黒潮が洗う足摺岬、きり立つた花崗岩の断崖が、春また浅い真青な海にそそり立ち、岬一帯には早や花を開いた椿の林が続き、南国の薫りをただよわせている。

その昔、金峰上人が悪魔を蹴飛ばした岬ということから今日の足摺岬の名が出たといわれている様に、ここは四国八十八ヶ所巡り第三十八番の札所金剛福寺があり、霊場を廻るお通路さんの姿はここでは見逃すことが出来ない。

岬の村伊佐の部落は急な狭い石段をはきんで低いかわらぶきの屋根が幾重にも重なり合つて立ち並んでいる。戸数は凡そ二五〇戸、約九割の家が男たちの漁にその日のくらしをたてている。今は丁度寒ぶりの最盛期、景気の良い水上げが港をにぎわせ、漁師たちは新年の大漁に祝杯を交わすのである。又ここのおかみさんたちは男が漁へ出ている間、網作りや名産かつお節作りに精を出す働き者でもある。そして両親が海へ出ているこの子供たちは日がな一日たこ上げや石段を相手に遊んでいる。

岬の突端にそびえる白亜の燈台、ここには七人の燈台守りが日夜休むことなく働き、沖ゆく見知らぬ船や海のあらくれ共の心の灯となつてこの足摺を見守っているのである。

621R

279R

1730R

179R